

第43回横浜港カッターレース競技規約

一般・女子レース

1. レースは、往路180m、復路180mの360m折り返しコースで行う。
2. レースは、予選各組首位チームのタイム上位4チームで決勝レースを行い、優勝、準優勝、3位及び4位を決定する。
3. 使用艇は、コースに割り当て、予選出場レース・コースは開会前に抽選で決定しておくが、決勝レースは、改めてコースを抽選する。
4. 出場クルーは、艇長1名、艇指揮1名、漕手6名（乗組定員は8名）とする。
あらかじめ、クルーリストを審判長に提出する。
レース開始前にクルーの変更が生じた場合は、クルーリストを再度提出する。
レース進行中に漕ぎ手の変更を希望する場合は、審判長の承認を得る。
 - * 女子チームの艇長、艇指揮は、男性でも可とする。
 - * 一般の決勝については、乗艇前にメンバー確認を行うことがある。確認後は艇長・艇指揮を含めメンバーの変更は認められない。但し審判長が認めた場合には、この限りではない。
5. スタート
 - 1) スタート準備
 - ① 各艇は速やかにスタート位置につき、スタートの態勢を整える。
なお、乗艇してからの練習は禁止する。練習によりスタート位置につくのが遅れた場合は失格とする。
 - ② 艇長はスタートブイより出ているスタートラインエンドのリングを握り、艇首を回頭ブイに向けてオールをあげる。スタート準備が整えば、艇指揮が白旗をあげて、スターターに知らせる。
艇首ふぞろいときは、スターターの指示に従い、速やかに艇を移動させる。
 - ③ この場合、艇指揮は、お互いの艇首が揃うように漕手を指揮する。
艇首立て直しのために、バウのオールのみ常時使用してよい。
スタート態勢が崩れた場合には、赤旗をあげてスターターに知らせ、速やかに態勢を整える。
 - ④ スターティングライン等がラダーポストと船尾の間からんでスタートできない場合、失格とする。
 - 2) 用意
スターターが白旗を頭上に掲げ、「用意」の号令を発したら、すべてのオール（バウのオールを含む）をあげ、「用意」の姿勢をとった後は、艇の態勢が崩れても、やり直しは認めない。
 - 3) スタート
スターターのホイッスルと白旗の振り下ろしでスタートする。
 - 4) スタートのやり直し
審判長がスタート不完全と認めた場合、及び水かき3回のうちオールの折損が生じた場合、レースを中断しスタートのやり直しをする。オールの折損は艇指揮が、赤旗を振ってスターターに知らせる。レースの中断は、スピーカーで知らせる。

6. 回頭

コースの折り返しは、回頭ブイを左に見て行うものとする。

7. ゴール

岸壁の黄旗とブイ（赤旗）を見通す線を、艇首が横切った時をゴールとし、ホイッスル・白旗の振り下ろしで知らせる。ゴールは、各々のブイを左に見て行うものとする。順位決定は目視で行い、同着の場合は審判長の判断によるが追い込み艇を勝者とする。

8. オール

レース途中で、オールを流した場合及びオールを折損した場合には、予備オールを使用することができる。

9. 次の場合は、失格とする。

- 1) 乗艇した後、速やかにスタート位置につかないと審判長が認めた場合
- 2) スタートにおいて、フライングを犯したと審判長が認めた場合
- 3) スタート合図ののち、著しく他艇より遅れ、以後のレースの進行に支障があると審判長が認めた場合
- 4) 故意又は過失により、他艇の進路を妨害したと審判長が認めた場合
- 5) コースの折り返しの際に、艇がブイに接触した場合
- 6) 艇長若しくは艇指揮が漕手の援助をした場合
- 7) 同一人が複数のチームに、漕手として参加した場合
- 8) 一般の決勝レースにおいて、艇長・艇指揮を含むメンバー変更を審判長の許可を得ずに行った場合。
- 9) ブイを右に見てコースを折り返した場合及びブイを右に見てゴールした場合
- 10) その他この競技規約に違反した場合

10. 他艇から進路妨害を受けたと審判長が認めたチームは、タイムチャレンジレース実施希望をレース終了直後に審判長へ申し出ることができる。

- 1) タイムチャレンジレースは、予選レース又は決勝レースの各レース終了後に行う。
- 2) タイムチャレンジレースは、予選レース又は決勝レースと同一コースを使用して行う。
ただし、タイムチャレンジを行うチームが複数あり、コースが重複する場合は抽選によりコースを決定する。
- 3) タイムチャレンジレースのタイムをもって当該チームの予選レース又は決勝レースのタイムとみなす。

11. 競技中の判定は審判長が行い、出場クルーは、その判定に抗議することができない。

12. 競技の円滑な進行のため、レース終了後速やかに乗艇場所に着艇する。

その際、艇長は着艇まで舵を離さない。

第43回横浜港カッターレース競技規約

小学生レース

1. レースは、往路180m、復路180mの360m折り返しコースで行う。
2. レースは、海洋少年団等小学生対抗とし、タイムレースとする。
その中で優勝・準優勝・3位～8位を決定する。
3. 使用艇は、コースに割り当て、予選出場レース・コースは大会前に抽選で決定しておく。
4. 出場クルーは、
 - ・ 漕手（カッターを漕いだことのある小学4～6年生） 6名
 - ・ 監督（チームの監督として統率する教員等） 1名
 - ・ 艇長兼艇指揮（カッターレース出場経験のある成人） 1名以上の8名で編成する。
なお、監督が艇長及び艇指揮を希望する場合は、兼ねることができる。
また、予めクルーリストを審判長に提出すること。クルーの変更がある場合は、再度提出する。
5. スタート
 - 1) スタート準備
 - ① 各艇は速やかにスタート位置につき、スタートの態勢を整える。
なお、乗艇してからの練習は禁止する。練習によりスタート位置につくのが遅れた場合は失格とする。
 - ② 艇長はスタートブイより出ているスタートラインエンドのリングを握り、艇首を回頭ブイに向けてオールをあげる。スタート準備が整えば、艇指揮が白旗をあげて、スターターに知らせる。艇首ふぞろいときは、スターターの指示に従い、速やかに艇を移動させる。
 - ③ この場合、艇指揮は、お互いの艇首が揃うように漕手を指揮する。
艇首立て直しのために、バウのオールのみ常時使用してよい。
スタート態勢が崩れた場合には、赤旗をあげてスターターに知らせ、速やかに態勢を整える。
 - 2) 用意
スターターが白旗を頭上に掲げ、「用意」の号令を発したら、すべてのオール（バウのオールを含む）をあげ、「用意」の姿勢をとった後は、艇の態勢が崩れても、やり直しは認めない。
 - 3) スタート
スターターのホイッスルと白旗の振り下ろしでスタートする。
 - 4) スタートのやり直し
審判長がスタート不完全と認めた場合、及び水かき3回のうちオールの折損が生じた場合、レースを中断しスタートのやり直しをする。オールの折損は艇指揮が、赤旗を振ってスターターに知らせること。レースの中断は、スピーカーで知らせる。

6. 回頭

コースの折り返しは、回頭ブイを左に見て行うものとする。

7. ゴール

岸壁の黄旗とブイ（赤旗）を見通す線を見、艇首が横切った時をゴールとし、ホイッスル・白旗の振り下ろしで知らせる。ゴールは、各々のブイを左に見て行うものとする。順位決定は目視で行い、同着の場合は審判長の判断によるが追い込み艇を勝者とする。

8. レース途中で、オールを流した場合及びオールを折損した場合には、予備オールを使用することができる。

9. 次の場合は、失格とする。

- 1) 乗艇した後、速やかにスタート位置につかないと審判長が認めた場合
- 2) スタートにおいて、フライングを犯したと審判長が認めた場合
- 3) スタート合図ののち、著しく他艇より遅れ、以後のレースの進行に支障があると審判長が認めた場合
- 4) 故意又は過失により、他艇の進路を妨害したと審判長が認めた場合
- 5) コースの折り返しの際に艇がブイに接触した場合
- 6) 艇長若しくは艇指揮が漕手の援助をした場合
- 7) 同一人が複数のチームに、漕手として参加した場合
- 9) ブイを右に見てコースを折り返した場合及びブイを右に見てゴールした場合
- 10) その他この競技規約に違反した場合

10. 他艇から進路妨害を受けたと審判長が認めたチームは、タイムチャレンジレース実施希望をレース終了直後に審判長へ申し出ることができる。

- 1) タイムチャレンジレースは、予選レース又は決勝レースの各レース終了後に行う。
- 2) タイムチャレンジレースは、予選レース又は決勝レースと同一コースを使用して行う。

ただし、タイムチャレンジを行うチームが複数あり、コースが重複する場合は抽選によりコースを決定する。

- 3) タイムチャレンジレースのタイムをもって当該チームの予選レース又は決勝レースのタイムとみなす。

11. 競技中の判定は審判長が行い、出場クルーは、その判定に抗議することができない。

12. 競技の円滑な進行のため、レース終了後速やかに乗艇場所に着艇する。

その際、艇長は着艇まで舵を離さない。

スタート・回頭・ゴール

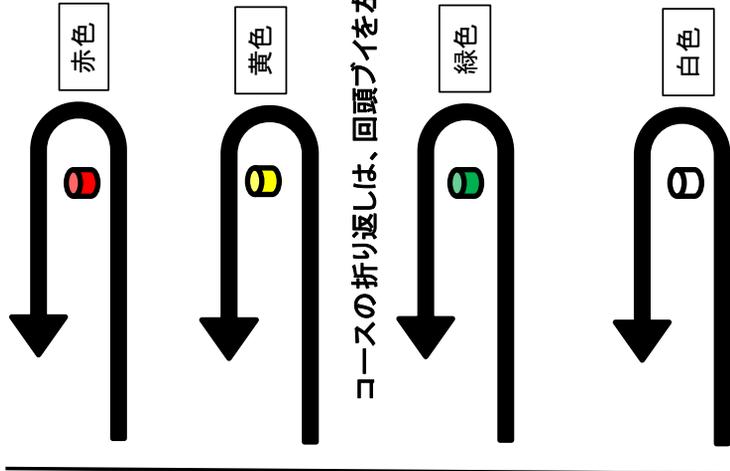


ゴールは、各々の旗を左に見て行う。



スタートポール
⊖は、コース・バイ

スタート・ゴール



コースの折り返しは、回頭バイを左に見て行う。

折返点(左回頭)

スタート合図

